

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和6年度7月号

○ 概要

- (1) 令和6年度7月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,276億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+5.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,363円（伸び率+1.7%）であった。（→P.1,2）
 調剤医療費の内訳は、技術料が1,990億円（伸び率+6.0%）、薬剤料が5,271億円（伸び率+5.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が965億円（伸び率+2.1%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,330円（伸び率+0.4%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.75種類（伸び率▲0.5%）、27.5日（伸び率+2.8%）、70円（伸び率▲1.8%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,142億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+182億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39その他の代謝性医薬品の776億円（伸び幅+54億円）で、伸び幅が最も高かったのは39その他の代謝性医薬品の+54億円（総額776億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,142 億円 (+182 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(776 億円)	21 循環器官用薬 (570 億円)	11 中枢神経系用薬 (556 億円)
0歳以上	18.8 億円	44 アレルギー用薬 (5.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.6 億円)	61 抗生物質製剤 (3.0 億円)
5歳未満	(▲2.7 億円)			
5歳以上	100.1 億円	44 アレルギー用薬 (31.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (27.8 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(7.2 億円)
15歳未満	(+4.1 億円)			
15歳以上	1,541 億円	39 その他の代謝性 医薬品(291 億円)	11 中枢神経系用薬 (287 億円)	42 腫瘍用薬 (176 億円)
65歳未満	(+12 億円)			
65歳以上	857 億円	39 その他の代謝性 医薬品(192 億円)	42 腫瘍用薬 (148 億円)	21 循環器官用薬 (133 億円)
75歳未満	(+4 億円)			
75歳以上	1,625 億円 (+164 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(285 億円)	21 循環器官用薬 (264 億円)	42 腫瘍用薬 (211 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,363円（伸び率+1.7%）で、最も高かったのは高知県（11,185円（伸び率+0.5%））、最も低かったのは佐賀県（8,080円（伸び率▲0.4%））であった。
 また、伸び率が最も高かったのは徳島県（伸び率+5.6%）、最も低かったのは沖縄県（伸び率▲2.1%）であった。（→P.31～32）

«後発医薬品の使用状況について»»

【後発医薬品割合】(→P.39)

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	86.2 %	+1.8 %
薬剤料ベース	18.3 %	▲0.7 %
後発品調剤率	79.4 %	▲0.8 %
(参考) 数量ベース（旧指標）	58.5 %	▲1.3 %

注) [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】(→P.40~41)

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.1 %	+10.4 % (100歳以上)	▲19.6 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.3 %	26.4 % (100歳以上)	10.2 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	86.2 %	90.1 % (100歳以上)	82.6 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】(→P.46~50)

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	820 億円 (+13 億円)	21 循環器官用薬 (255 億円)	11 中枢神経系用薬 (147 億円)	23 消化器官用薬 (100 億円)
0歳以上 5歳未満	6.4 億円 (▲1.6 億円)	44 アレルギー用薬 (3.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5歳以上 15歳未満	15.9 億円 (▲1.1 億円)	44 アレルギー用薬 (8.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)
15歳以上 65歳未満	287 億円 (+2 億円)	21 循環器官用薬 (71 億円)	11 中枢神経系用薬 (68 億円)	44 アレルギー用薬 (29 億円)
65歳以上 75歳未満	167 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	23 消化器官用薬 (21 億円)
75歳以上	343 億円 (+19 億円)	21 循環器官用薬 (119 億円)	11 中枢神経系用薬 (55 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)

【後発医薬品 都道府県別】(→P.55~60)

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,242 円	1,629 円(北海道)	1,047 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.0%	+1.9 %(徳島県)	▲5.0 %(沖縄県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	86.2 %	91.9 %(沖縄県)	83.0 %(東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.3 %	20.9 %(山形県)	16.2 %(京都府)
後発医薬品調剤率	79.4 %	84.7 %(沖縄県)	75.5 %(東京都)
(参考) 旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.5 %	64.6 %(沖縄県)	54.8 %(東京都)

[利用上の留意点]

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度7月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。